

群馬県出身の萩原朔太郎（1886～1942）は、口語自由詩を確立した詩人として知られます。雑誌「朱鷺」で室生犀星（1889～1962）を知った朔太郎は、犀星、山村暮鳥（1884～1924）らと人魚詩社を設立し、1915年、詩誌「卓上噴水」を創刊しました。続いて1917年に刊行した第一詩集『月に吠える』は詩壇に大きな影響を与えました。

山村暮鳥は1912年から1918年まで、伝道師として現在のいわき市平に居住する間、多くの詩人を見出し、いわき地域の詩風土を牽引しました。このころ、暮鳥が発行した雑誌「風景」「LE・PRISME」には、朔太郎も寄稿しています。暮鳥がいたところのいわきは、詩壇という海に突き出た突端の岬とも灯台ともいえるのではないのでしょうか。

朔太郎の没後80周年を記念した朔太郎大全実行委員会主催による共同企画展「萩原朔太郎大全2022」参加展である本展では、大正初期のいわき地域が、口語自由詩が確立されていく現場であり、詩壇の最先端であったことを紹介します。



山村暮鳥（1913～1914年ごろ）



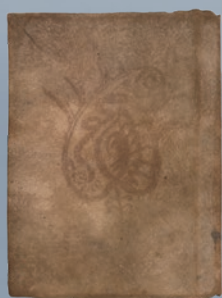
萩原朔太郎（1924年）※



室生犀星（1919年ごろ）  
室生犀星記念館 提供



『卓上噴水』第2集  
1915年4月 人魚詩社※



山村暮鳥『聖三稜玻璃』特装版  
1915年12月 になぎよ詩社※



萩原朔太郎『月に吠える』複製版  
1974年 日本近代文学館  
(初版 1917年2月  
感情詩社・白日社出版部)



塩屋埼灯台  
山村暮鳥『聖三稜玻璃』収録の  
灯台を暗喩する詩「岬」は、平  
時代に書かれた。

※は萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち 前橋文学館蔵

## 会期中の催しのご案内

※新型コロナウイルス感染拡大による予定変更等については、文学館公式サイトをご確認ください。

**スポット展示「吉野せい」** 10月1日(土)～12月25日(日) 文学館常設展示室前 要観覧券  
いわき出身の詩人・吉野せい（よしのせい 1899～1977）の生涯と作品を紹介します。

**没後35回忌「心平忌」・第28回「心平を語る会」** 11月12日(土) 13時30分～14時30分 草野心平生家・常慶寺（心平墓所）  
心平が好んだ音楽や、心平の詩を元にした歌を演奏します。 歌：前田裕子氏 伴奏：中田このみ氏  
墓参（13時～13時30分）は参加自由。定員20名（先着順）要電話申し込み 10月13日(休)9時より受付

**文学散歩「草野心平記念文学館で宝探し」** 11月26日(土) 10時～16時（随時）  
文学館の建物や展示を手がかりに、宝探しをします。クリアした方には記念品を贈呈。  
先着20名 当日受付 文学館ボランティアの会事業

**「ガリ版ワークショップ」** 12月3日(土) 13時30分～15時 文学館小講堂  
謄写版（ガリ版）でクリスマスカードや年賀状を作ります。 参加無料  
定員15名（先着順）要電話申し込み 11月1日(火)9時より受付

**クリスマスえほんコンサート** 12月18日(日) 14時～15時 文学館小講堂  
いわき絵本と朗読の会ほか 鑑賞無料 定員50名  
協力 文学館ボランティアの会 要電話申し込み 11月29日(火)9時より受付

**朗読サロン** 11月19日(土)、12月10日(土) いずれも11時～12時  
楽しみながら朗読を学びます。お気軽にご参加下さい。 文学館小講堂 参加無料  
文学館ボランティアの会事業

## 文学館えほんのひろば

アトリウムロビーのえほんのひろばは、どなたでも無料でご利用いただけます。豊かな自然の中で、ぜひお楽しみください。

